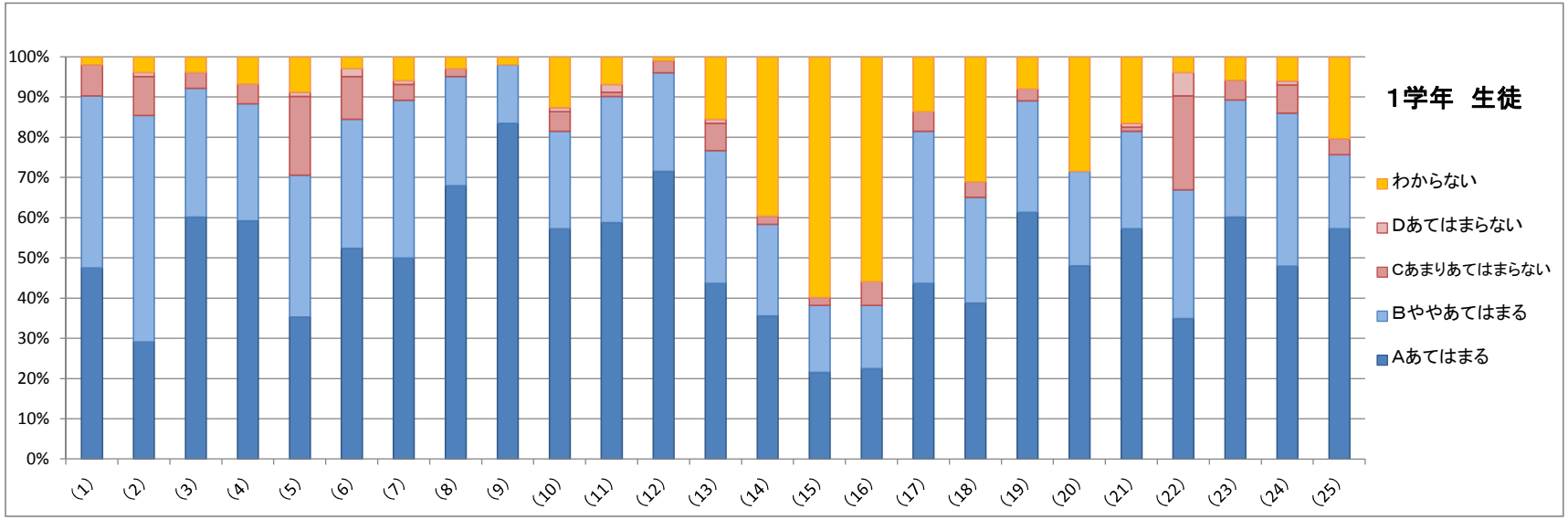
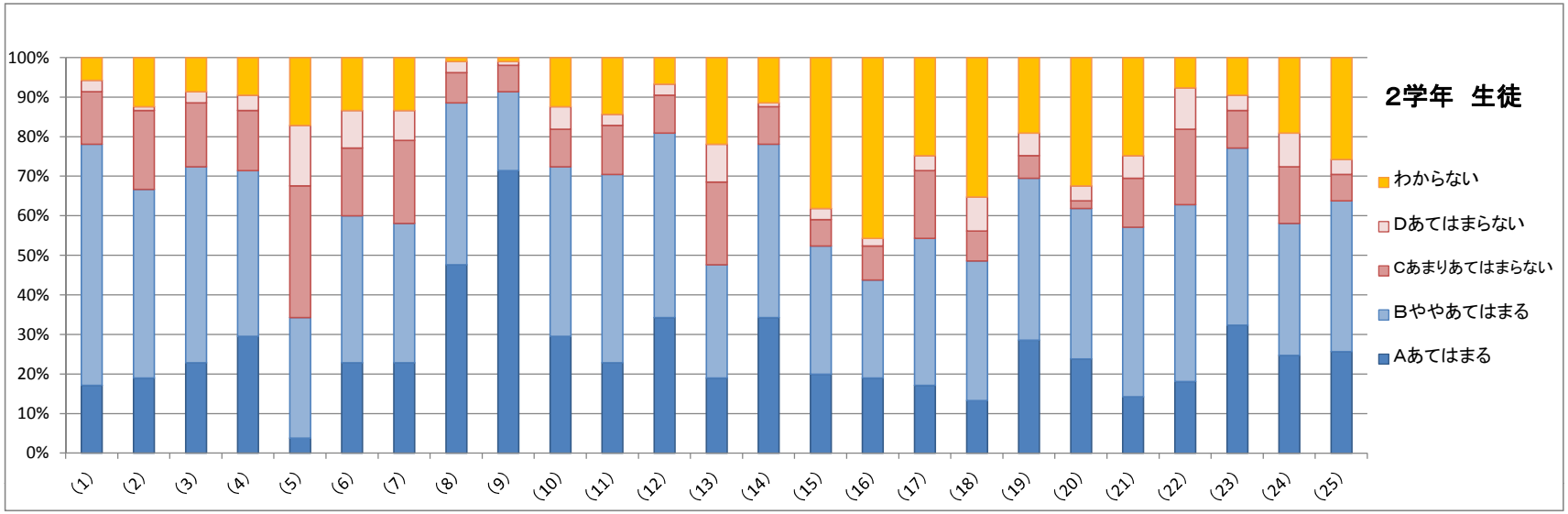
学校評価アンケート集計（%）　　生徒

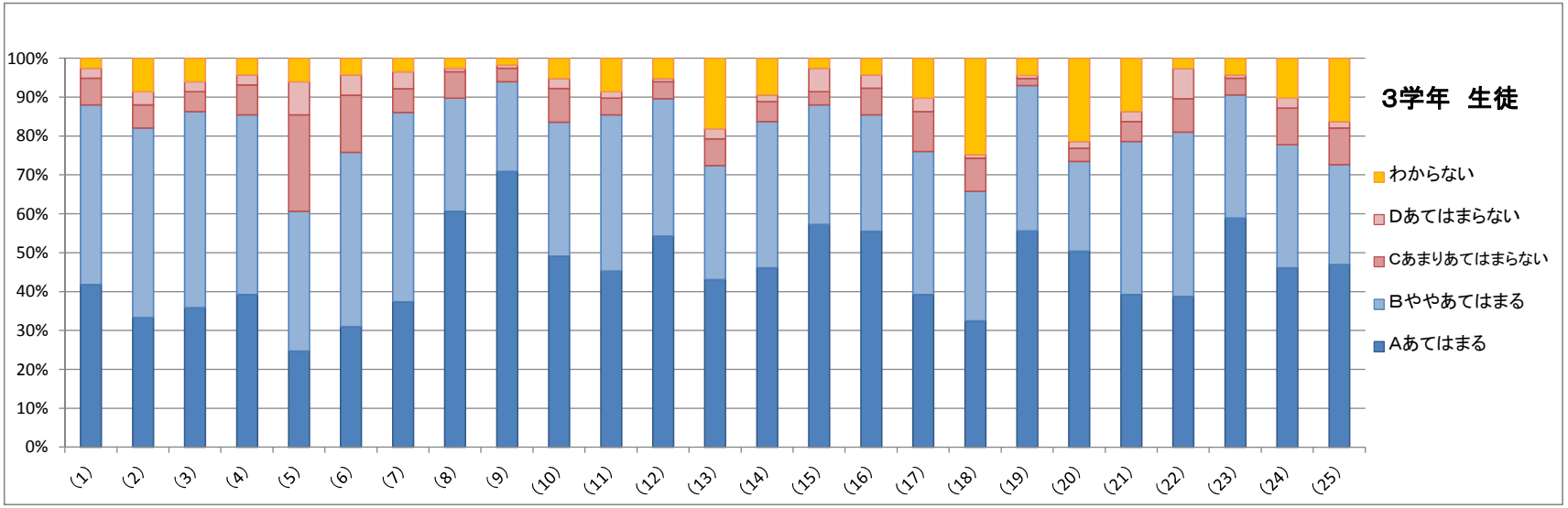
A:あてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:あてはまらない　わ:わからない

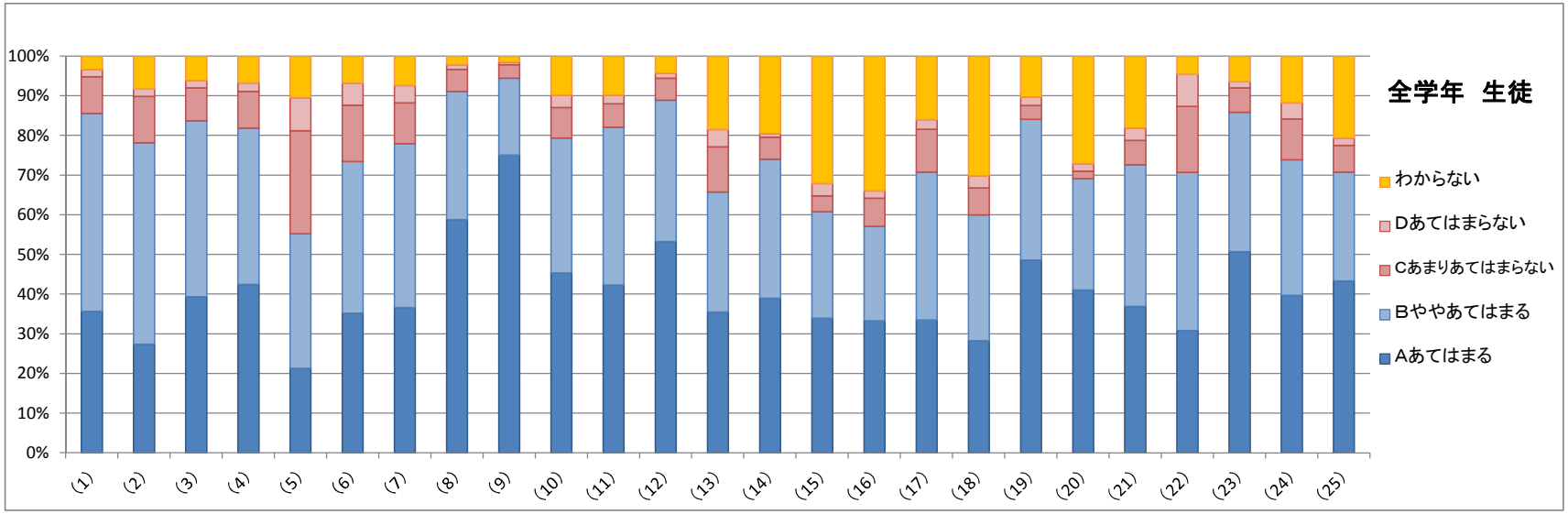
観点		評価項目	1学年					2学年					3学年					全学年				
			A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ
1 学習指導	各教科	(1) 授業は、生徒にとって分かりやすい。	48	43	8	0	2	17	61	13	3	6	42	46	7	3	3	36	50	9	2	3
		(2) 生徒は基礎・基本が身に付いている。	29	56	10	1	4	19	48	20	1	12	33	49	6	3	9	27	51	12	2	8
		(3) 先生方は、評価・評定について明確な説明をしている。	60	32	4	0	4	23	50	16	3	9	36	50	5	3	6	39	44	8	2	6
		(4) 先生方は、※①言語活動の充実を図る授業を行っている。	59	29	5	0	7	30	42	15	4	10	39	46	8	3	4	42	39	9	2	7
		(5) ※先生方は、②ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業を行っている。	35	35	20	1	9	4	30	33	15	17	25	36	25	9	6	21	34	26	8	10
	道徳	(6) 道徳の授業によって、道徳的な考え方や実践力が身に付いている。	52	32	11	2	3	23	37	17	10	13	31	45	15	5	4	35	38	14	6	7
	総合的な学習の時間	(7) 課題解決、情報活用、表現などの能力が身に付いている。	50	39	4	1	6	23	35	21	8	13	37	49	6	4	3	37	41	10	4	7
	特別活動	(8) 学校行事は、生徒が活躍する場面があり、内容が充実している。	68	27	2	0	3	48	41	8	3	1	61	29	7	1	3	59	32	6	1	2
		(9) 修学旅行やセカンドスクールの宿泊行事は、充実した体験活動になっている。	83	15	0	0	2	71	20	7	1	1	71	23	3	1	2	75	19	3	1	2
		(10) 生徒会や委員会活動は、生徒の自主的・主体的活動になっている。	57	24	5	1	13	30	43	10	6	12	49	34	9	3	5	45	34	8	3	10
2 生活指導		(11) 先生方は、基本的生活習慣の確立に取り組んでいる。	59	31	1	2	7	23	48	12	3	14	45	40	4	2	9	42	40	6	2	10
		(12) 先生方は、安全指導や防災教育などを十分に行っている。	72	25	3	0	1	34	47	10	3	7	54	35	4	1	5	53	36	6	1	4
		(13) 教育相談体制が整っており、生徒の悩み等に適切に対応している。	44	33	7	1	16	19	29	21	10	22	43	29	7	3	18	35	30	11	4	19
3 進路指導		(14) 先生方は、職場体験活動など、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。	36	23	2	0	40	34	44	10	1	11	46	38	5	2	9	39	35	6	1	20
		(15) 先生方は、※③進路選択に当たって、十分な情報提供を行っている。	22	17	2	0	60	20	32	7	3	38	57	31	3	6	3	34	27	4	3	32
		(16) 先生方は、※④進路選択に当たって、親身になって相談にのるなど、適切な指導を行っている。	23	16	6	0	56	19	25	9	2	46	56	30	7	3	4	33	24	7	2	34
4 学校運営		(17) 教育方針や指導の重点を分かりやすく伝えている。	44	38	5	0	14	17	37	17	4	25	39	37	10	3	10	34	37	11	2	16
		(18) 校長を中心に教職員の協力体制がしっかりしている。	39	26	4	0	31	13	35	8	9	35	32	33	9	1	25	28	32	7	3	30
		(19) 先生方は、教育活動に熱心に取り組んでいる。	61	28	3	0	8	29	41	6	6	19	56	37	2	1	4	49	36	3	2	10
		(20) 先生方以外の職員(事務員・用務員)は、それぞれの業務(仕事)を的確に行っている。	48	24	0	0	28	24	38	2	4	32	50	23	3	2	21	41	28	2	2	27
		(21) 先生方は、生徒や保護者に対して説明責任を果たしている。	57	24	1	1	17	14	43	12	6	25	39	39	5	3	14	37	36	6	3	18
		(22) 学校環境は、いつも清潔で整備されている。	35	32	23	6	4	18	45	19	10	8	39	42	9	8	3	31	40	17	8	5
5 地域連携		(23) 学校行事を通じて、地域との連携を深めている。	60	29	5	0	6	32	45	10	4	10	59	32	4	1	4	51	35	6	2	6
		(24) 生徒は地域の活動や行事に協力している。	48	38	7	1	6	25	33	14	9	19	46	32	9	3	10	40	34	10	4	12
		(25) 学校だよりやホームページを通じて、情報発信を的確に行っている。	57	18	4	0	20	26	38	7	4	26	47	26	9	2	16	43	27	7	2	21

＊A評価・B評価の上位評価の合計が80%を超えるものには青、C評価・D評価の下位評価合計及び「わからない」の評価が30%を超える質問項目に関しては赤の網掛けで示した。




2学年　生徒
わからない
Dあてはまらない
Cあまりあてはまらない
Bややあてはまる
Aあてはまる
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25)


3学年　生徒
わからない
Dあてはまらない
Cあまりあてはまらない
Bややあてはまる
Aあてはまる
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25)



考　察　全学年生徒の集計結果では、上位評価合計が80%以上の項目が昨年度より1つ増加し9項目ある。項目ごとの昨年度との比較では、「基礎・基本が身に付いている」「基本的生活習慣の確立への取組」「安全指導や防災教育」「学校行事を通した地域連携」等の21項目で上位評価のポイントが上昇している。特に、「生徒や保護者に対して説明責任を果たしている」は＋14ポイント、「教員以外の職員は所管の業務を的確に行っている」は＋12ポイント、「教員は教育活動に熱心に取り組んでいる」は＋11ポイント、「教育相談体制」と「キャリア教育」が＋10ポイントと続いている。一方、「分かりやすい授業」と「学校環境」の上位評価のポイント減少、「ICT機器の活用」「進路選択」「教育相談体制」「教職員の協力体制」の上位評価のポイントが増加しているが、まだ低い状況である。C評価・D評価を合計して30%以上の質問項目、「わからない」の評価が30%以上の質問項目については、改善の余地があると考え、以下に分析と具体的な改善策について示す。

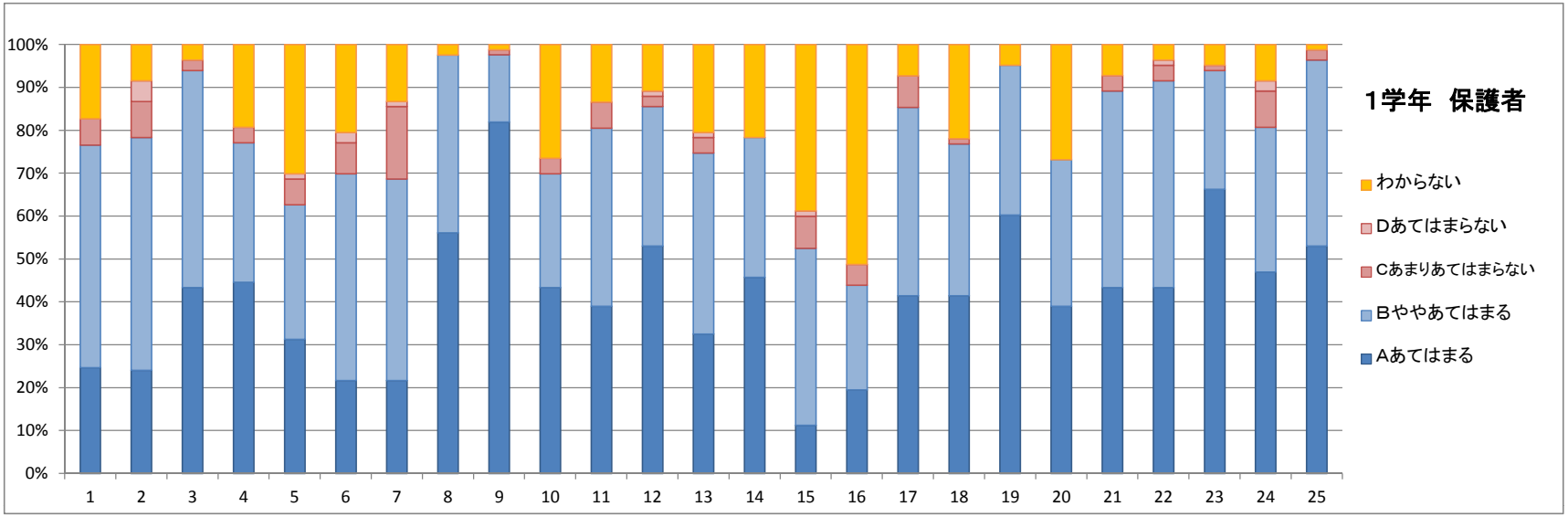
評価項目	分析	改善策
(1)授業は、生徒にとって分かりやすい。	1年生の上位評価が91%、2年生の上位評価が78%、3年生の上位評価が88%となっている。全体での上位評価は86%である。生徒にとって分かる授業の構築及び授業規律の確立とともに、つまずきのある生徒へのきめ細かい指導が求められている。	評価項目(2)「基礎・基本が身についている」の上位評価が昨年度より＋6ポイント、評価項目(4)「言語活動の充実を図る授業を行っている」の上位評価が昨年度より＋5ポイントとなっている。このことを踏まえ、数学・英語の少人数授業や学習指導員を導入したTTによる授業等の充実を図るとともに、各教科において効果的な授業形態や指導方法を研究し、実践していく。
(5)ICT機器を効果的に活用した授業を行っている。	C・Dの下位評価を合わせると、1年生が21%、2年生が48%、3年生が34%、全体で34%である。この数値から、学年ごとの使用頻度に差があり、学習場面においてICT機器の効果的な活用が、教科によって十分でないことがわかる。	今年度、全教員がプレゼンテーションの仕方について研修を実施してきている。各教科の年間指導計画の中にICT機器活用による指導計画を位置づけ、計画的に活用する。また、教科によってはデジタル教科書が導入されており、一層の有効活用を図る。
(13)教育相談体制が整っており、生徒の悩み等に適切に対応している。	C・Dの下位評価を合わせると、1年生が8%、2年生が31%、3年生が10%、全体で15%である。「わからない」が1年生16%、2年生22%、3年生が18%、全体で19%となっている。	夏季休業中及び12月の教育相談週間の実施と共に、ふれあい月間（6月・11月・2月）等での生徒の生活状況調査を実施し、生徒の生活状況の把握に努める。スクールカウンセラー及び派遣相談員と連携し、養護教諭及び担任等との一層の相談体制を推進する。スクールカウンセラー及び派遣相談員の相談窓口を広く知らせ、活用の推進を図る。
(15)進路選択に当たって、十分な情報提供を行っている。 (16)進路選択に当たって、親身になって相談にのるなど、適切な指導を行っている。	1年生の上位評価が(15)39%及び(16)39%であり、「わからない」と答える生徒が、(15)60%及び(16)56%となっている。2年生の上位評価が、(15)52%及び(16)44%であり、「わからない」と答える生徒が、(15)38%及び(16)46%となっている。3年生の上位評価は(15)(16)ともに88%であり、学年が上がるにつれて上位評価が増加している。	(1)年度当初に各学年の進路指導計画に基づいたガイダンスを行う。その際に、進路指導＝進学指導ではないことを生徒に説明し、生徒一人一人の個性・適正・能力に基づき、各学年に応じた進路指導を指導する。 (2)年2回の教育相談時に、担任を中心に発達段階に応じた進路への意識づけを行う。

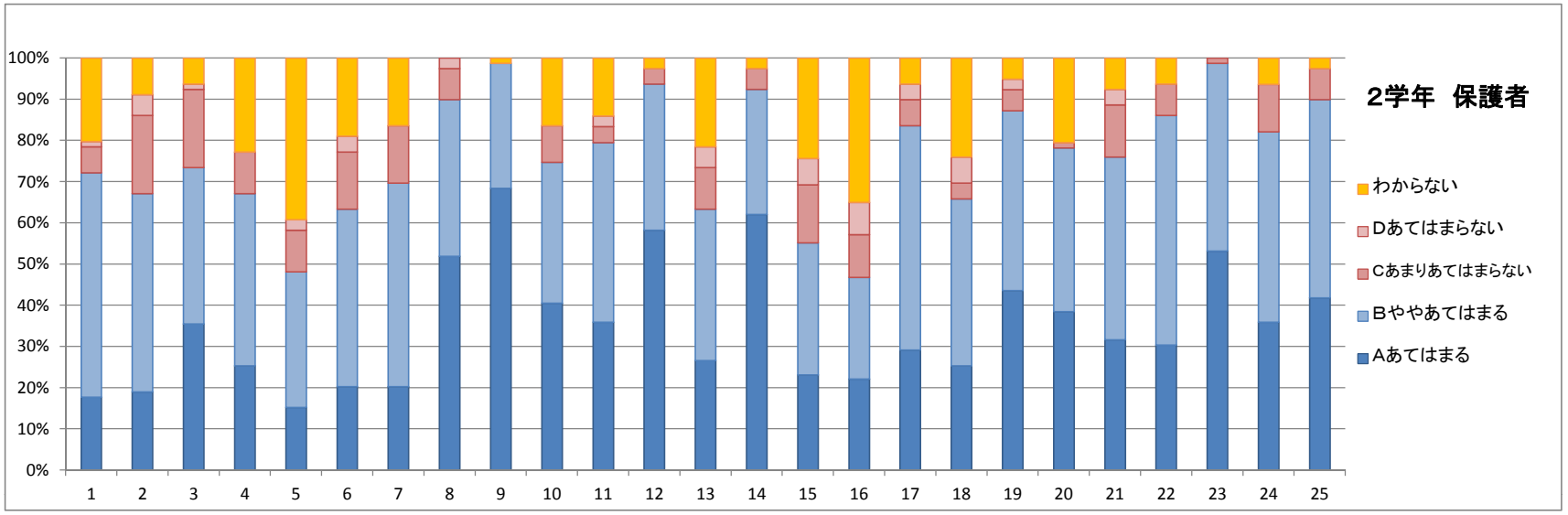
学校評価アンケート集計（%）　保護者

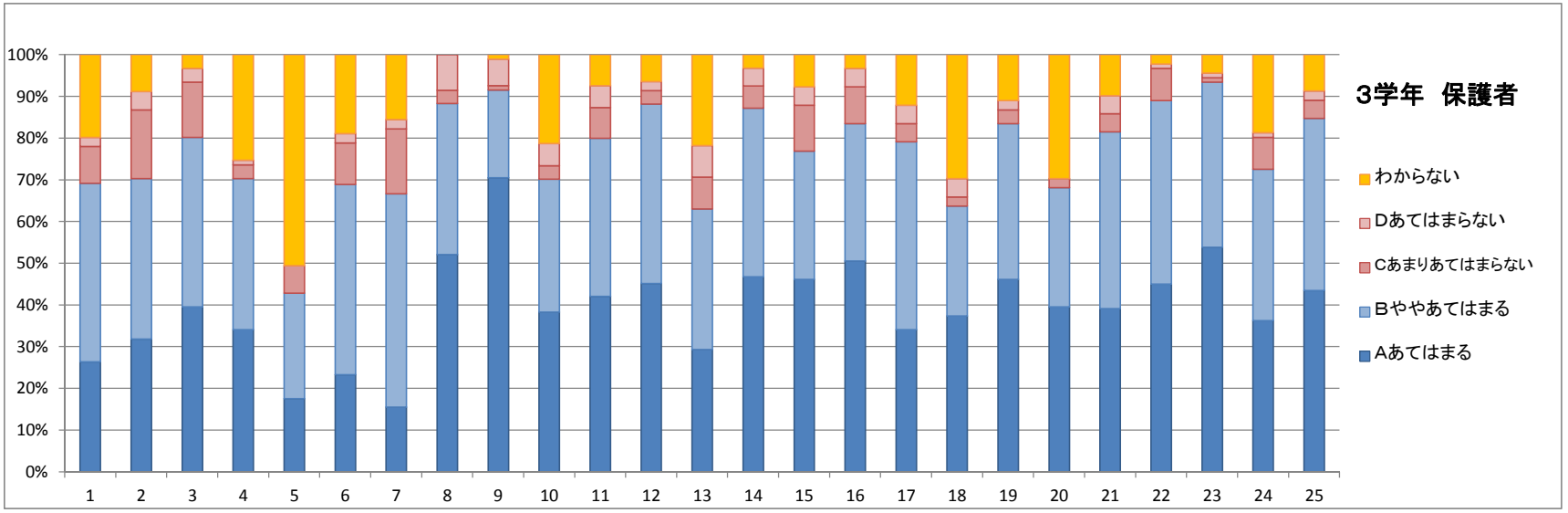
A:あてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:あてはまらない　わ:わからない

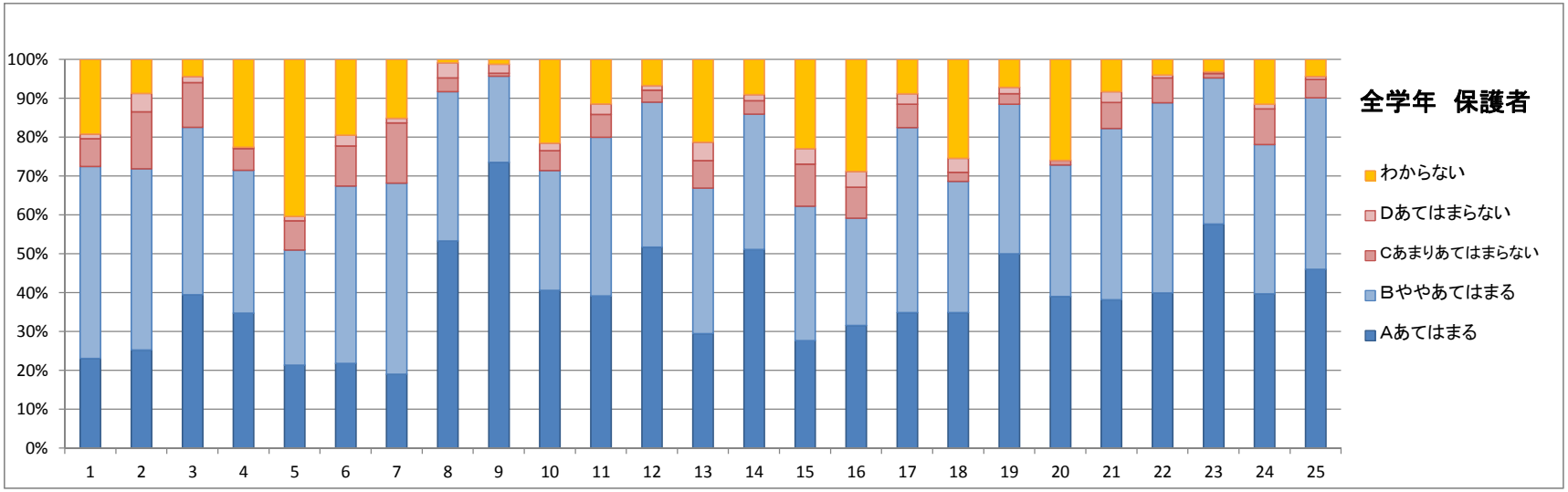
観点		評価項目	1学年					2学年					3学年					全学年				
			A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ	A	B	C	D	わ
1 学習指導	各教科	(1) 授業は、生徒にとって分かりやすい。	25	52	6	0	17	18	54	6	1	20	26	43	9	2	20	23	49	7	1	19
		(2) 生徒は基礎・基本が身に付いている。	24	54	8	5	8	19	48	19	5	9	32	38	16	4	9	25	47	15	5	9
		(3) 教員は、評価・評定について明確な説明をしている。	43	51	2	0	4	35	38	19	1	6	40	41	13	3	3	40	43	11	2	4
		(4) 教員は、※①言語活動の充実を図る授業を行っている。	45	33	4	0	19	25	42	10	0	23	34	36	3	1	25	35	37	6	0	23
		(5) 教員は、※②ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業を行っている。	31	31	6	1	30	15	33	10	3	39	18	25	7	0	51	21	30	8	1	40
	道徳	(6) 道徳の授業によって、道徳的な考え方や実践力が身に付いている。	22	48	7	2	20	20	43	14	4	19	23	46	10	2	19	22	46	10	3	19
	総合的な学習の時間	(7) 課題解決、情報活用、表現などの能力が身に付いている。	22	47	17	1	13	20	49	14	0	16	16	51	16	2	16	19	49	15	1	15
	特別活動	(8) 学校行事は、生徒が活躍する場面があり、内容が充実している。	56	41	0	0	2	52	38	8	3	0	52	36	3	9	0	53	38	4	4	1
		(9) 修学旅行やセカンドスクールの宿泊行事は、充実した体験活動になっている。	82	16	1	0	1	68	30	0	0	1	71	21	1	6	1	74	22	1	2	1
		(10) 生徒会や委員会活動は、生徒の自主的・主体的活動になっている。	43	27	4	0	27	41	34	9	0	16	38	32	3	5	21	41	31	5	2	21
2 生活指導		(11) 基本的生活習慣の確立に取り組んでいる。	39	41	6	0	13	36	44	4	3	14	42	38	7	5	7	39	41	6	3	11
		(12) 安全指導や防災教育などを十分に行っている。	53	33	2	1	11	58	35	4	0	3	45	43	3	2	6	52	37	3	1	7
		(13) 教育相談体制が整っており、生徒の悩み等に適切に対応している。	33	42	4	1	20	27	37	10	5	22	29	34	8	8	22	30	37	7	5	21
3 進路指導		(14) 職場体験活動など、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。	46	33	0	0	22	62	30	5	0	3	47	40	5	4	3	51	35	4	2	9
		(15) ※③進路選択に当たって、十分な情報提供を行っている。	11	41	8	1	39	23	32	14	6	24	46	31	11	4	8	28	35	11	4	23
		(16) ※④進路選択に当たって、親身になって相談にのるなど、適切な指導を行っている。	20	24	5	0	51	22	25	10	8	35	51	33	9	4	3	32	28	8	4	29
4 学校運営		(17) 教育方針や指導の重点を分かりやすく伝えている。	41	44	7	0	7	29	54	6	4	6	34	45	4	4	12	35	48	6	3	9
		(18) 校長を中心に教職員の協力体制がしっかりしている。	41	35	1	0	22	25	41	4	6	24	37	26	2	4	30	35	34	2	4	25
		(19) 教員は教育活動に熱心に取り組んでいる。	60	35	0	0	5	44	44	5	3	5	46	37	3	2	11	50	38	3	2	7
		(20) 教員以外の職員は所管の業務を的確に行っている。	39	34	0	0	27	38	40	1	0	21	40	29	2	0	30	39	34	1	0	26
		(21) 生徒や保護者に対して説明責任を果たしている。	43	46	4	0	7	32	44	13	4	8	39	42	4	4	10	38	44	7	3	8
		(22) 学校環境は、いつも清潔で整備されている。	43	48	4	1	4	30	56	8	0	6	45	44	8	1	2	40	49	6	1	4
5 地域連携		(23) 学校行事を通じて、地域との連携を深めている。	66	28	1	0	5	53	46	1	0	0	54	40	1	1	4	58	38	1	0	3
		(24) 生徒は地域の活動や行事に協力している。	47	34	8	2	8	36	46	12	0	6	36	36	8	1	19	40	38	9	1	12
		(25) 学校だよりやホームページを通じて、情報発信を的確に行っている。	53	43	2	0	1	42	48	8	0	3	43	41	4	2	9	46	44	5	1	4
				回収率		81%			回収率		71%			回収率		79%			回収率		76%	

＊A評価・B評価の上位評価の合計が80%を超えるものには青、C評価・D評価の下位評価合計及び「わからない」の評価が30%を超える質問項目に関しては赤の網掛けで示した。




2学年　保護者
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25
わからない
Dあてはまらない
Cあまりあてはまらない
Bややあてはまる
Aあてはまる


3学年　保護者
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25
わからない
Dあてはまらない
Cあまりあてはまらない
Bややあてはまる
Aあてはまる



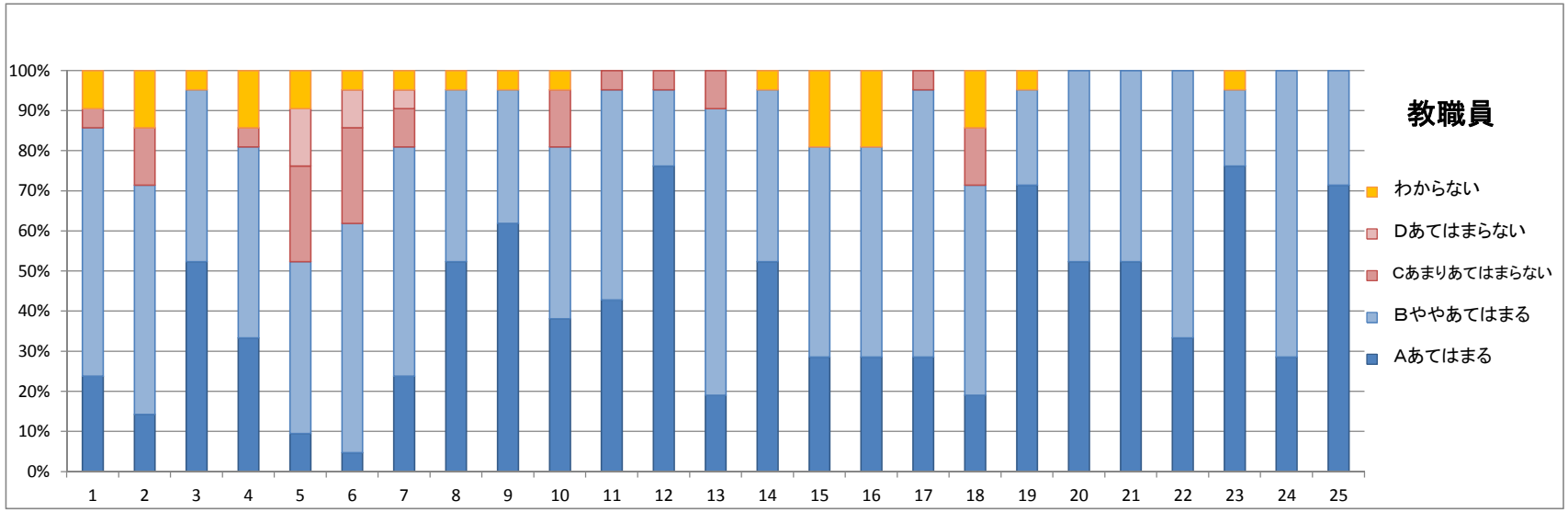
考　察　全学年保護者の集計結果では、上位評価合計が80%以上の項目が昨年度より2つ増加し12項目ある。項目ごとの昨年度との比較では、「授業が分かりやすい」「基礎・基本が身に付いている」「評価・評定の明確な説明」「安全指導や防災教育の充実」「進路選択に当たっての情報提供及び相談」等の24項目で、上位評価が上昇している。特に「進路選択の情報提供」は＋16ポイント、「言語活動の充実を図る授業」は＋11ポイント、「ICT機器の活用」と「情報発信」は＋10ポイントと数値が上がってきている。また、学校運営に対しても各項目とも上位評価は増加している。一方、「ICT機器の活用」「道徳の授業」や「進路選択に当たっての情報提供及び相談」については昨年度より上位評価の数値が上がっているが、まだ低い状況である。C評価・D評価を合計して30%以上の質問項目、「わからない」の評価が30%以上の質問項目に関しては、改善の余地があると考え、以下に分析と具体的な改善策について示す。

観点・項目	分析	改善策
(5)ICT機器を効果的に活用した授業を行っている。	「わからない」の評価が、1年生30%、2年生39%、3年生51%、全体で40%である。学校公開等の保護者に見える場面でのICT機器の活用頻度に起因していると思われる。	今年度、全教員がプレゼンテーションの仕方についての研修を実施してきている。各教科の年間指導計画の中にICT機器活用による指導計画を位置づけ、計画的に活用する。学校公開等を活用し、教科指導だけでなく、道徳や総合的な学習の時間等での計画的な活用に努める。
(15)進路選択に当たって、十分な情報提供を行っている。 (16)進路選択に当たって、親身になって相談にのるなど、適切な指導を行っている。	全学年の上位評価は昨年度より増加しているが、「わからない」の評価が1年生(15)39%・(16)51%、2年生(15)24%・(16)35%と高い数値を示している。3年生は(15)(16)共に低い数値である。1・2年生の保護者にとって、「進路指導＝進学指導」と捉えている傾向が強いと思われる。	(1)年度当初の保護者会で各学年の進路指導計画に基づいた説明を行う。その際に「進路指導＝進学指導」ではないことを保護者に説明するとともにキャリア教育に関する保護者への啓発活動を実施し、生徒一人一人の個性・適正・能力を引き出し、学年に応じた進路指導を行うことを伝える。 (2)年2回の教育相談時に、担任を中心に発達段階に応じた生徒・保護者への進路への意識づけを行う。 (3)3学年保護者への進路説明会に1・2学年保護者の参加を促したことにより、情報提供への理解を得てきている。また、上級学校の先生の話を聞く会も同様に全学年保護者の参加を促していく。
(18)校長を中心に教職員の協力体制がしっかりしている。	「わからない」の評価が、1年生22%、2年生24%、3年生30%、全体で25%である。校長を中心とした教職員の協力体制(＝組織力)が見えにくいことが、「わからない」という評価につながっていると考えられる。	全教職員が、教育方針や指導の重点を踏まえ所管の業務を的確に行っている様子の情報発信を行う。全教職員の共通理解に基づき、組織的な教育活動を実践し、生徒や保護者・地域に対して、より丁寧な対応を図る。
(20)教員以外の職員は所管の業務を的確に行っている。	「わからない」の評価が、1年生27%、2年生21%、3年生30%、全体で26%である。教員以外の職員の所管する業務が、保護者にとって見えにくいことが「わからない」という評価につながったと考えられる。	教員以外の職員を含めた全教職員が、所管の業務を的確に行っている様子の情報発信をする。生徒や保護者・地域に対して、より丁寧に対応し、安心感や信頼感が高まる業務の遂行に努める。

学校評価アンケート集計（%）　　教職員 A:あてはまる　B:ややあてはまる　C:あまりあてはまらない　D:あてはまらない　わ:わからない

観点		評価項目	教職員				
			A	B	C	D	わ
1 学習指導	各教科	(1) 授業は、生徒にとって分かりやすい。	24	62	5	0	10
		(2) 生徒は基礎・基本が身に付いている。	14	57	14	0	14
		(3) 評価・評定について明確な説明をしている。	52	43	0	0	5
		(4) ※①言語活動の充実を図る授業を行っている。	33	48	5	0	14
		(5) ※②ＩＣＴ機器を効果的に活用した授業を行っている。	10	43	24	14	10
	道徳	(6) 道徳の授業によって、道徳的な考え方や実践力が身に付いている。	5	57	24	10	5
	総合的な学習の時間	(7) 課題解決、情報活用、表現などの能力が身に付いている。	24	57	10	5	5
	特別活動	(8) 学校行事は、生徒が活躍する場面があり、内容が充実している。	52	43	0	0	5
		(9) 修学旅行やセカンドスクールの宿泊行事は、充実した体験活動になっている。	62	33	0	0	5
		(10) 生徒会や委員会活動は、生徒の自主的・主体的活動になっている。	38	43	14	0	5
2 生活指導		(11) 基本的生活習慣の確立に取り組んでいる。	43	52	5	0	0
		(12) 安全指導や防災教育などを十分に行っている。	76	19	5	0	0
		(13) 教育相談体制が整っており、生徒の悩み等に適切に対応している。	19	71	10	0	0
3 進路指導		(14) 職場体験活動など、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。	52	43	0	0	5
		(15) ※③進路選択に当たって、十分な情報提供を行っている。	29	52	0	0	19
		(16) ※④進路選択に当たって、親身になって相談にのるなど、適切な指導を行っている。	29	52	0	0	19
4 学校運営		(17) 教育方針や指導の重点を分かりやすく伝えている。	29	67	5	0	0
		(18) 校長を中心に教職員の協力体制がしっかりしている。	19	52	14	0	14
		(19) 教員は教育活動に熱心に取り組んでいる。	71	24	0	0	5
		(20) 教員以外の職員は所管の業務を的確に行っている。	52	48	0	0	0
		(21) 生徒や保護者に対して説明責任を果たしている。	52	48	0	0	0
		(22) 学校環境は、いつも清潔で整備されている。	33	67	0	0	0
5 地域連携		(23) 学校行事を通じて、地域との連携を深めている。	76	19	0	0	5
		(24) 生徒は地域の活動や行事に協力している。	29	71	0	0	0
		(25) 学校だよりやホームページを通じて、情報発信を的確に行っている。	71	29	0	0	0

＊A評価・B評価の上位評価の合計が80%を超えるものには青、C評価・D評価の下位評価合計及び「わからない」の評価が20%を超える質問項目に関しては赤の網掛けで示した。



考　察 各観点において、ほぼ肯定的評価がされている。しかし、C・D評価が20%以上の質問項目に関しては改善の余地があると考え、以下に分析と具体的な改善策について示す。

評価項目	分析	改善策
(5)ICT機器を効果的に活用した授業を行っている。	ICT機器として、電子黒板・書画カメラ・プロジェクター・スクリーン・デジタルカメラ等が整備され活用に努めてきており、下位評価が昨年度の45%から38%と改善されてきている。これらの機器を有効活用している教科等が限られていることや、教員の使用に際しての技量等により個人差がある。準備の手間はかかるが、単元の内容等に合わせて積極的活用を図る。	(1)各教科の年間指導計画に基づき、学習内容に応じたICT機器の活用を年間を通して行う。 (2)授業でのICT機器を有効活用するために、ICTサポーターとの連携を図りながら、教材開発や機器操作の充実を図る。
(6)道徳の授業によって、道徳的な考え方や実践力が身に付いている。	各学年の道徳担当が中心となって、道徳の授業を通して生徒の道徳的実践力の向上を図っているが、現実には道徳性の高まりには至っていないと捉えている。このことが、下位評価の上昇につながっている。	(1)進路学習部を中心に、各学年の生徒の実態にあった道徳資料や教材の選定と指導の工夫を推進する。 (2)すべての教育活動に道徳の内容項目を掲げ、生徒にわかるように授業に生かす実践を行う。
(10)生徒会や委員会活動は、生徒の自主的・主体的活動になっている。	生徒は自分の役割を自覚し、丁寧に生徒会や委員会活動に取り組もうとしている。生徒会主催の活動や委員会活動を工夫してきている。一層の自主的な活動の実践を促す取組が必要である。	(1)生徒がよりよい学校づくりのために、主体的に考え、立案し、実行できるように、担当教員を中心に全教職員で支援していく。 (2)生徒会を中心に委員会活動の見直しをさせ、課題を整理し、生徒会活動の活性化を図る。
(18)校長を中心に教職員の協力体制がしっかりしている。	校長を中心とした教職員の協力体制が、昨年度の下位評価23%から14%へと減少してきたが、さらに組織力の向上が望まれる。	全教職員が、現状確認を行い課題を整理し、課題解決の方策を見出し、組織的な対応を実践する。

全体考察 生徒・保護者の評価結果と教職員との評価結果に差が出ている項目もある。それらの項目に対して、以下の分析と具体的な改善策について示す。

観点・項目	分析	改善策
1　学習指導 (4)言語活動の充実を図る授業を行っている。	生徒はA・B評価を合わせて81%、保護者は72%、教職員が81%である。保護者と教職員との評価結果に大きな差が生じている。また、保護者の「わからない」が23%であることも注視したい。教職員が日々の学習指導の中で、言語活動の充実を図るために授業の創意工夫をしていることが、保護者に十分に伝わっていないことがわかる。	年度当初に保護者への「言語活動」の説明を行い、言語能力向上拠点校としての研究計画に基づき保護者・地域への情報発信を行う。また、各教科等での年間指導計画における言語活動を明確にする。年5回の学校公開日に配布するリーフレットに学習内容の重点項目として「言語活動」を明記する。また、学校だより等を通じて、情報発信を行う。
2　生活指導 (13)教育相談体制が整っており、生徒の悩み等に適切に対応している。	生徒はA・B評価を合わせて65%、保護者は67%、教職員が90%である。生徒と教職員との評価結果に大きな差が生じている。教職員がSCや派遣相談員、専門家スタッフ等との連携による教育相談体制の中で、生徒の悩み等に適切に対応していると認識している教職員に対し、生徒の半数近くは十分な対応とは感じていない状況である。特に、2学年の53%が下位評価及び「わからない」である点を課題と受け止める必要がある。	夏季休業中及び12月の教育相談週間の実施と共に、ふれあい月間（6月・11月・2月）等での生徒の生活状況調査を実施し、生徒の生活状況の把握に努める。スクールカウンセラー及び派遣相談員と連携し、養護教諭及び担任等との一層の相談体制を推進する。スクールカウンセラー及び派遣相談員の相談窓口を広く知らせ、活用の推進を図る。また、保護者へ「心の教室」(SCや派遣相談員)の理解と活用を広く知らせる。1年生は今年度に引き続きスクールカウンセラー及び派遣相談員による全員面接を実施する。
3　進路指導 (15)進路選択に当たって、十分な情報提供を行っている。 (16)進路選択に当たって、親身になって相談にのるなど、適切な指導を行っている。	生徒はA・B評価を合わせて(15)61%及び(16)57%、保護者(15)63%及び(16)60%、教職員(15)81%及び(16)81%である。生徒・保護者と教職員との評価結果に大きな差が生じている。生徒・保護者は、「進路指導＝進学指導」と考えている傾向がある。また、1・2年生の進路指導の内容理解が十分でないことが起因していると思われる。学年が上がるにつれて上位評価の数値が上がり、また「わからない」の数値が激減していく。	(1)年度当初に学年集会や保護者会等で各学年の進路指導計画に基づいた説明を行う。その際に、「進路指導＝進学指導」ではないことを生徒・保護者に説明し、生徒一人一人の個性・適正・能力を引き出し、学年に応じた進路指導を行うことを伝える。 (2)年2回の教育相談時に、担任から生徒一人一人に応じた進路指導を丁寧に行う。 (3)3年生対象の進路説明会等を、1・2年生保護者にも通知し、参加を促すことで進学に関する情報提供を行う。
4　学校運営 (20)教員以外の職員は所管の業務を的確に行っている。	生徒・保護者ともに「わからない」評価が26%前後であるのに対して、教職員の「わからない」評価は0%である。教員以外の職員の所管する業務が、生徒・保護者にとって見えにくいことが「わからない」につながったと考えられる。	「見える学校運営」を意識し、教員以外の職員を含めた全教職員が、所管の業務を的確に行っている様子の情報発信を行う。また、生徒・保護者や地域に対してより丁寧に対応し、教育活動での安心感や信頼感が高まる業務の遂行に努める。